

# 防護柵の徹底管理とサルにも負けない集落づくり ～篠山市東木之部集落の取り組み～



## 地区の概要

全戸数	16戸
農作業従事戸数(家庭菜園含む)	全戸
専業農家	0戸
農地面積	14ha
生産目的	販売用が多い
集落営農	有 (共同利用型)
生産組合	有



主な作物は水稲、黒大豆(枝豆)、山芋。シカ・イノシシの被害が深刻化に伴い、2004年頃から集落一丸となった取り組みを開始する。2005年頃からサルやアライグマ対策にも取り組んでいる。

## これまでの対策

- 2002年 東側隣接集落(下板井)に集落防護柵が設置される
- 2004年 集落防護柵(金網柵)の設置 県事業活用  
西側隣接集落(長安寺・町之田・西木之部)と同時に施行  
山中に柵を通すため、周囲の樹木を伐採を行う(地元施工)
- 2005年 遊歩道整備(県事業活用)
- 2006年 集落でアライグマ・サル対策研修会  
サル・アライグマの被害も顕在化に伴い開催。  
集落一丸となったサル追い払い活動を開始
- 2010年 里山防災林整備(県事業) バッファゾーン整備で野生動物を寄せ付けない環境づくりにも取り組む
- 2011年 里山彩園実験事業(市事業)

## ここに注目!



### 山中に通した集落防護柵を工夫して管理!

- ① 山中に柵を通してため周囲の木を伐採して管理道を確保。

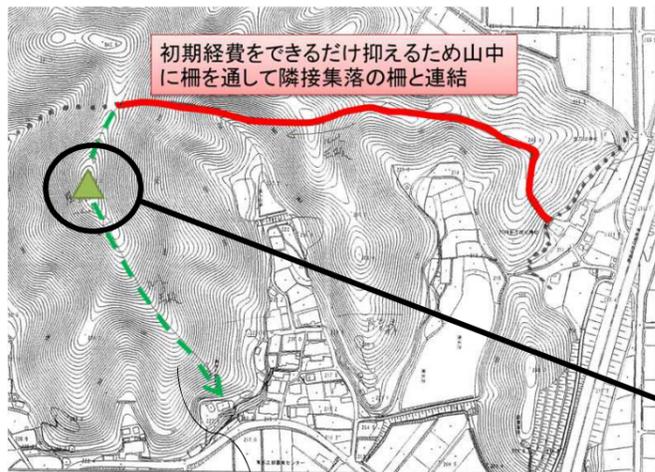


- ② 定期点検はもちろんしっかり!

3人1組で年6回程度農家全員で持ち回り管理記録を日誌に! 獣害管理組合に報告

- ③ 柵に番号札をつける!!

簡易な補修は点検時に行いますが、本格的な補修が必要な場合は、後で資材を用意して行います。その際に、番号札があると、補修が必要な箇所の連絡がしやすくなります。



初期経費をできるだけ抑えるため山中に柵を通して隣接集落の柵と連結

- ④ 点検しやすさを考えて散策道を設ける

シカ柵ができて管理をしているうちに意識が変わった。大仕事だったけど、良かったと思う。



散策道中の小ピークには休憩所を設けている

## サルメールを使用した集落ぐるみの追い払い!



篠山市サルメール情報に集落の4名が登録し、群れの居場所を毎日確認



前日 集落内放送を使って、住民に接近情報を知らせる

当日 花火ほか鍋やフライパン持参でサルを見つけた人がガンガン鳴らして周知。高齢者も女性も全員参加の追い払い。



自作の連射式花火鉄砲

## 点検作業を楽しみに変える!!



展望台からの見晴し

ミツバツツジ

景観のよい高台に展望台をつくり散策道を整備している。春にはミツバツツジの群生地があり、楽しみにしている。たまに山歩きをするのは健康のためにも良い(自治会長)。

## 最近の被害状況—地区へのインタビューより



柵設置以後、シカ・イノシシともに被害は激減!! 柵を設置できない県道南からの侵入はたまにあるが、その際は猟友会と連携し、捕獲してもらっている。柵があるおかげで捕獲効率も良くなった。



シカ柵設置後に、サルが出没し始めるようになったが、集落総出の追い払いにより、滞在時間が短くなった。よく被害にあう畑には「おじろ用心棒」の設置を検討中。サルとは常に「知恵くらべ」で頑張っていく。



アライグマによる被害も出始めたが、集落内で狩猟免許(わな)取得者1名、篠山市アライグマ捕獲従事者が2名による捕獲活動を行う。多い年で約10頭捕獲し、被害も減少傾向にある。

## センター講評

集落防護柵は設置した後の点検・補修作業がもっとも重要となります。通常、山中に柵を通すとメンテナンスが大変になってくるため、効果を持続することが困難なのですが、東木之部集落では必要な知識をしっかりと得て、施工当初から点検・補修を第一に考えた努力や工夫をされています。さらに散策道や展望台を設置し、春にはミツバツツジを觀賞するなど、つらい点検作業に楽しみをもたらし、意欲継続を図る発想は秀逸です。高齢の女性も含む集落一丸となったサル追い払い体制やアライグマ捕獲の推進も他の集落のモデルとなる優れた対策・体制だと言えます。

